

研究課題	新潟市における COVID-19 の救急応需への影響調査に基づく新救急搬送システムの創出
支援番号	GC03320213
研究事業期間	令和3年4月1日から令和6年3月31日
助成金総額	1,150,000
研究代表者 (所属機関)	佐藤 信宏 (新潟市民病院 救急科)
研究分担者 (所属機関)	廣瀬 保夫 (新潟市民病院・救急医学)、赤澤 宏平 (新潟大学医歯学総合病院 医療情報部)、笠原 篤 (新潟市消防局救急課 救急救命士)、山添 優 (新潟市急患診療センター)
研究キーワード	COVID-19、救急搬送、救急搬送システム、輪番制
研究実績 の概要	<p>(研究1) COVID-19 流行による救急搬送の状況変化の調査 方法: 2018年1月~2022年12月の新潟市の救急搬送された全症例を対象に、COVID-19 流行前後における、救急搬送患者の属性、電話照会件数を評価し、搬送困難例の要因を調査する。</p> <p>結果 新潟市では、2020年、2021年の全体の救急搬送数、救急搬送困難割合は低く抑えられ、2022年になって、両者ともに増加した。 COVID-19 流行期では、急病と二次医療機関への搬送件数が増加し、高齢者、中等症が搬送困難例の要因となっていた。</p> <p>(研究2) 新潟市の輪番制度の状況評価・影響調査 方法 2018年1月~2022年12月の内科輪番病院、コロナ輪番病院 (2021年5月から開始) への救急搬送割合、輪番病院以外の救急搬送割合を調査する。また、新潟市民病院が内科輪番の際、外因性や3次救急患者の救急搬送先への影響を評価する。</p> <p>結果 内科輪番病院は急病患者の3割の受入にとどまっている。 COVID-19 時の COVID-19 輪番病院は、4割の患者を受け入れていた。 新潟市民病院が内科輪番の場合、3次救急、外因性の救急受入が、非輪番日より減少していた。</p> <p>(研究3) COVID-19 流行による新潟市急患センター受診状況変化の調査 方法 2018年1月~2022年12月の新潟市急患診療センターを受診した全症例について、受診患者数の変化を評価する。</p> <p>結果 新潟市急患センターの受診者数は、2020年に COVID-19 流行前の半数以下となった。その後増加しているが、2022年でも2019年の6割の受診者数であった。</p> <p>提言 COVID-19 は、急病・高齢者・中等症患者を増加し、将来の救急医療の問題を早期に表面化した。 新潟市の救急医療は、多くの中小規模の二次医療機関により支えられているが、現状の内科輪番病院の受入能力を上げることは現実的ではなく、2024年の働き方改革により、小規模病院で内科輪番を組んでも限界と思われる。 中小規模の病院の合併などによる医療資源の集約化を行うなど、規模の大きな二次医療機</p>

関が必要であり、二次救急を受ける体制整備が早急に求められる。

また、COVID-19 時の Real time monitoring (ReMON) のように、Information technology を利用し、病態と受け入れ病院のマッチングをすることが解決手段の 1 つとなる可能性がある。